

知的障害

共に学べる場を求めて



開催日時 **2025. 3.13** 木 ウェビナー形式 (Web会議システムZoom) **9:30~12:30**

対象者

関心のある方はどなたでも歓迎です

後日1ヶ月程度の見逃し配信行います

※複数名での参加・試験を希望する場合には、事前に問い合わせ先へ連絡をしていただいた上で、その内容に応じて、学校単位など複数名の参加・試験を許可します。詳しくは申込サイトより

申込方法

右記申込サイトよりお申込みください

[Peatix](#)

[当日参加+見逃し配信] 2025年3月13日(木)12:30まで

[見逃し配信のみ] 2025年4月13日(日)23:00まで

※情報保障等が必要な参加者は2025年2月20日(木)までに申込を推奨



知的障害



大学

知的障害と大学

— 共に学べる場を求めて —

高校を卒業した人が大学等に進学する割合が87.3%であるのに対し、知的障害特別支援学校の高等部を卒業した人の進学率は1.7%程度にとどまる。つまり、知的障害のある人は早期の就労が求められ、成人してから教育を受ける機会がほとんどない。現在、日本における知的障害のある成人の学びの場は、特別支援学校専攻科、福祉事業型専攻科、大学等が開催する公開講座がある。また、北米、ヨーロッパ、韓国など海外の国々では、知的障害のある人を対象とした履修コースを大学が開講し、障害のない大学生と共に学生生活を過ごせる大学もある。しかし、これらの学びの場は十分に知られておらず、資源も限られているため、知的障害のある人は「学ぶ」よりは「働く」べきという認識や態度が無自覚に形成されている可能性もある。

このイベントでは、知的障害のある成人が共に学べる場を求めて、日本における学びの場の取り組みを紹介する。加えて、知的障害のある生徒や保護者、特別支援学校教員は、これらの学びの場をどう感じているか、また、日本の大学で学びの場がどの程度実現可能かについて調査した結果を報告する。話題提供を踏まえ、知的障害のある成人の学びの場に関する課題や展望、大学等の教育機関における知的障害のある人のインクルージョンなどについて、参加者も交えて議論したい。

一般公開WEBイベント **2025年3月13日(木)9:30~12:30**

ウェビナー形式(Web会議システムZoom)

後日1ヶ月程度の見逃し配信を行います

第一部 話題提供 [1時間50分]

司会進行 佐々木 銀河(筑波大学)

登壇者

趣旨説明

話題提供1:菅野 恵さま(学校法人三幸学園)

私立特別支援学校の挑戦~仙台みらい高等学園専攻科の取り組みを通して~

私立特別支援学校高等部として開校し4年目となります。調理や美容などあらゆる分野の専門学校を多数運営する学校法人三幸学園にしかできない本校の様々な挑戦と課題についてご紹介いたします。

話題提供2:永山 智章さま / 富澤 澄玲さま(株式会社ゆたかカレッジ)

ゆたかカレッジにおける取組と課題

18歳以降(自治体判断により15歳以降も可)の障がいのある青年たちが、社会で活躍する力をつけるために通う最長4年間の「福祉型カレッジ」における日々の取組と課題について話題提供を行います。

話題提供3:津田 英二さま(神戸大学)

神戸大学「学ぶ楽しみ発見プログラム」

神戸大学で2019年度から実施している「学ぶ楽しみ発見プログラム」の概要を報告します。知的障害のある成人を対象とした特別の課程で、週3日後期の約4か月間にわたって開講している計148時間のプログラムです。

話題提供1:佐々木 銀河(筑波大学)

知的障害のある人の学びの場に関するニーズと実現可能性に関する調査報告

米国の「知的障害者向け大学教育プログラム」と日本の「特別支援学校専攻科」、「福祉事業型専攻科」、「大学のオープンカレッジ」のそれぞれに対する知的障害生徒と保護者、特別支援学校教員のニーズ調査、ならびに大学での実現可能性に関する調査結果を報告します。

休憩 [10分]

第二部 パネルディスカッション [1時間00分]

参加者から申込時に聴取した関心事を参考にディスカッションを行います。



菅野 恵さま



永山 智章さま



富澤 澄玲さま



津田 英二さま



佐々木 銀河

申し込みサイト: <https://chi-to-manabi.peatix.com/>

問い合わせ先: イベント担当窓口(筑波大学 佐々木銀河) sgalaxy@human.tsukuba.ac.jp